



## 平成 29 年度全国剣道指導者研修会（近畿ブロック）

平成 29 年度全国剣道指導者研修会近畿ブロック（主催＝日本武道館、全日本剣道連盟、全日本学校剣道連盟、主管＝京都府学校剣道連盟）は 12 月 2・3 日の 2 日間、京都府京都市の京都市武道センターで、中学校保健体育科教員 22 名を含む 78 名が参加して行われた。本事業は平成 24 年度から完全実施された中学校保健体育科における武道授業の充実に向けて、剣道の授業が効果的に展開されるよう、全国 9 ブロックのうち、毎年 5 ブロックで開催されており、今年度 4 回目の実施である。

### ◆1日目（12月2日）

開講式では、青木元樹日本武道館振興部振興課主任が挨拶に立った。

「本日お集まりいただいている講師の先生方は、長年に渡り剣道授業を研究されてこられた一流の先生方です。参加者の皆様の中には、今日初めて剣道に触れるという方もいらっしゃると思いますが、講師の先生方にお任せいただき、安心して指導を受けていただければと思います」

続いて、網代忠宏全日本剣道連盟常任理事が挨拶を述べた。

「本研修会は、中学校の剣道授業を円滑に進めるためにどのような方法を取ったらいいかを学ぶために実施しております。中学校武道必修化が始まって危惧した点は、指導者・用具・施設の不足でした。施設・

用具がなくても、剣道授業を展開できるということの一つのモットーに、指導法の研究を進めてきました。今回は参加者の皆様にとって目新しい指導内容が出てくると思います。さらに研鑽を重ねていただき、剣道授業を通しての人づくりに貢献していただきたいと思います」

最初に、山田博子講師による「中学校保健体育における武道（剣道）の学習について」の講義が行われた。教育基本法における教育の基本理念の解説から、学習指導要領における武道の取扱を説明。次期学習指導要領改訂や、有効打突の条件（気剣体の一致）にも触れ、その後の研修に繋げた。

次に、百鬼史訓講師による「安全指導」の講義が行われた。「剣道授業を実施する中学校の約半数は、武道場ではなく、体育館等で授業を行っている」とし、体育館で授業を行う場合、床やバレーボールの支柱を刺す金具等が老朽化していると危険が伴うため、注意・点検が必要。また同様の場合に、衛生面に関する配慮として、授業後に「手を洗いなさい。足を拭きなさい」というような指導も必要であると述べた。また、竹刀の点検不足から、竹刀のささくれ、割れた竹等が原因で発生する事故事例も発表し、安全に対する注意をさらに促した。

続いて、花澤博夫講師による「体罰・暴力によらない指導」の講義が行われた。体罰は、生徒の人権を奪っていると述べ、「中学校武道必修化では、精神性の

指導が問われている。体罰は指導上仕方ないという考えから早く抜け出す必要がある」と述べた。

休憩を挟み、吉田幸子久御山町立久御山中学校教諭が、「ICTの活用と学び合い学習の充実を目指して」と題した剣道授業の事例発表を行った。剣道専門の教員である吉田教諭は、「最初は、自分が専門だから見本を見せて授業を行えばなんとかなるだろうというおごりがあった。だが、それではいけないと考え直し、若い教員にICT教材活用方法のレクチャーを受けた」という。生徒同士がタブレット端末で撮影した班活動の様子や、試験の映像を紹介した。「生徒同士が教え合う『学び合い学習』は、生徒の技術や学習意欲の向上に繋がる」と述べた。

午後の研修では、軽米満世講師が授業の導入段階として、「剣道の歴史と特性」を説明した後、山田講師が、対人性を意識し、剣道の要素を取り入れたアイスブレイキングを紹介した。「手のひら攻防」「足の裏攻防」「剣道ジャンケン」「手拭いゲーム」「パートナーを探せ」等の実技は、参加者相互の交流にも繋がり、大いに盛り上がった。

佐藤義則講師による「礼法、所作」の指導では、全日本剣道連盟発行の『剣道指導要領』に掲載されている「礼の考え方」を紹介した。本書によると、『剣道は相手を攻撃する対人的格闘技であることから、ややもすると感情的になったり、過度に闘争的本能が現れてしまう場合がある。剣道を修練する中で、定められた礼儀作法を厳格に執り行うことにより、感情や闘争本能を人間として統御していくところに、剣道における礼の意味がある』とされている。また、学校剣道で取り扱うべき、①学習の場(体育館・武道場)に対する礼、②先生(師)に対しての礼、③相互(自分を高め合ってくれる相手・仲間へ)の礼の、3つの礼を紹介した。続いて、仮屋達彦講師を中心に木刀による剣道基本技稽古法の5本目までを全体指導で行った後、参加者は8つのグループに分かれ、木刀による剣道基本技稽古法の指導方法を話し合った。あるグループでは、剣道初心者の参加者に対し、「全体指導でどこがわかりにくかったか」という問いかけをし、話し合いに入った。

## ◆2日目(12月3日)

2日目は、福本修二講師による講話から始まった。

「参加者の皆様の研修に取り組む姿勢は、大変素晴らしい」と絶賛し、「指導者とは、子どもに教え、子どもから教えられたことを自分の中に溶け込ませ、それを活用する能力が大切です。人格、技術、または己に対する厳しさを持たなくてはいけません。自分自身を高め、そして子どもたちのためになることを考えて指導することが必要だと思います。頑張ってください」と述べ、参加者を激励した。

次に実技が始まり、竹刀による授業例として、仮屋講師が上下素振り、斜め素振り、跳躍素振り、2人1組での面打ち、小手打ち、胴打ちを指導した。続いて、花澤講師がリズム剣道の紹介として、アメリカ民謡『ネリーブライ』に合わせ、2人1組で向かい合った状態での素振り、面打ち、小手打ち、胴打ちの指導を行った。『ネリーブライ』では6回打突して受と取が交替、次に行ったAKB48の『365日の紙飛行機』では4回打突して受と取を交替させた。曲が終了すると、達成感・充実感からか、参加者から自然と拍手が沸き起こった。リズム剣道の終了後、岩脇司講師が剣道具の着装について説明した後、佐藤講師が剣道具を着装した状態で面打ち、小手打ち、胴打ちを指導した。

続いて、山田講師が、グループごとに気・剣・体をそれぞれ判定する「ごく簡単な試合」を紹介。「目的は、試合をする生徒を評価することではなく、全員の技術が向上することである」、「利点は、どこが良かったか、どこが足りなかったかを多方面から教えてもらえること」と説明した。参加者から「自分に旗をあげてもらえると高揚感があり、嬉しい」という感想が上がった。

午後の研修では、佐藤講師が剣道具を着装したまま行う応じ技(面抜き胴)を指導し、応じ技(面抜き胴)による「ごく簡単な試合」を軽米講師が紹介した。続いて行われた約束稽古では、「つば競り合い→引き胴→面抜き胴→残心」の一連の流れを指導した。その後、山田講師より「自由練習」、「簡単な試合方法」の指導、岩脇講師より次期学習指導要領改訂の詳細を示した「指導と評価」の講義、最後に質疑応答が行われ、全ての研修が終了した。

閉講式では、軽米講師が講師講評を述べた後、福本全日本剣道連盟副会長が主催者挨拶の中で、主幹である京都府学校剣道連盟への御礼の言葉を述べ、全日程を終了した。